

<高野山 メモ>

奥の院

高野山の信仰の中心であり、弘法大師が入定されている聖地。正式には一の橋から参拝する。一の橋から御廟まで約2キロメートルの道のりには、おおよそ20万基を超える諸大名の墓石や、祈念碑、慰霊碑の数々が樹齢千年に及ぶ杉木立の中に立ち並んでいる。

☆燈籠堂（とうろうどう）

・堂内には消えずの火として、祈親（きしん）上人が献じた祈親燈（きしんとう）、白河上皇が献じた白河燈、祈親上人のすすめで貧しいお照が大切な黒髪を切って献じた貧女の一燈（いっとう）、昭和の時代にある宮様と首相の手によって献じられた昭和燈が燃え続けている。

☆弘法大師御廟（こうぼうだいしごびょう）

- ・大師信仰の中心聖地であり、現在でも肉身をこの世にとどめ、深い禅定に入られており、わたしたちへ救いの手を差し伸べていらっしゃるという入定信仰を持つ大師の御廟所。
- ・弘法大師空海は835年、現在の奥之院のある場所の洞窟の中で入定（にゅうじょう）。
- ・入定とは「瞑想をして生きたまま仏になる」こと。なので、今現在も弘法大師は御廟の中で生きてるとされ、毎日2回6:00と10:30に食事が運ばれる「生身供（しょうじんぐ）」の儀式が行われている。



大門（だいもん）

高野山の入口にそびえ、一山の総門である大門。仁王像は東大寺南大門の仁王像に次ぐ我が国二番目の巨像と云われ、江戸中期に活躍した大仏師である運長と康意の作

壇上加藍（だんじょうがらん）

本来は「壇場伽藍」が正しい書き方とか。高野山全体を「道場」という意味合いで「壇場」、伽藍とは、僧侶が修行をする場所という意味。

高野山の伽藍が石段の上に建立されていることから、壇上加藍と呼ばれているとのこと。金堂の正面が南側で、それに倣い他の建造物も、ほぼ南側を向いて造営されている。

壇上伽藍は、〈胎蔵曼荼羅〉の世界を表していると言われる。



☆中門（ちゅうもん）

- 金堂の正面手前の一段低い所に、そびえる五間二階の楼門。壇上伽藍はかつて天保 14 年（1843 年）の大火により、西塔のみを残して、ことごとく焼失。高野山開創 1200 年を記念して 170 年ぶりに、再建。

☆金堂（こんどう）

- 高野山御開創当時、大師により御社に次いで最初期に建設されたお堂。現在の建物は 7 度目の再建で、昭和 7 年（1932 年）に完成。

☆六角経蔵（ろっかくきょうぞう）

- 経蔵の基壇（きだん）付近のところに把手がついており、一回りすれば一切経を一通り読誦した功德が得るといわれています。

☆御社（みやしろ）

- 大師が弘仁 10 年（819 年）に山麓の天野社から地主神として勧請した高野山の鎮守。
- 密教を広めるにあたり、日本の地元の神々によってその教えが尊ばれ守られるとする思想を打ち出し、神仏習合思想の大きな原動力にも。

☆御影堂（みえどう）

- 大師の持仏堂として建立されたが、後に真如親王直筆の「弘法大師御影像」を奉安し、御影堂と名付けられた。堂内外陣には大師の十大弟子像が掲げられている。お堂は高野山で最重要の聖域。

☆三鈷の松（さんこのまつ）

- ・弘法大師が唐より帰国される折、真言密教をひろめるにふさわしい場所を求めるため、日本へ向けて三鈷杵（さんこしょう）と呼ばれる法具を投げたところ、雲に乗って日本へ向けて飛んで行った、後に高野近辺を訪れたところ、狩人から夜な夜な光を放つ松があるとのこと。早速その松へ行ってみると、そこには唐より投げた三鈷杵が引っかかっており、この地こそ密教をひろめるにふさわしい土地であると決心されたとのこと。その松は三鈷杵と同じく三葉の松であり、「三鈷の松」としてまつられるようになった。

☆根本大塔（こんぽんだいとう）

- ・大師、真然大徳（しんぜんだいとく）と二代を費やして 816 年から 887 年ごろに完成したと伝えられる。真言密教の根本道場におけるシンボルとして建立されたので古来、根本大塔と呼ばれている。

☆蛇腹道（じゃばらみち）

- ・「伽藍の入口（金剛峯寺）」から「壇上伽藍内（東塔）」へ向かう小道。
- ・蛇腹道という由来は、壇上伽藍を高野山の中心に据えて高野山全体の寺院の並びを俯瞰したとき、その形が蛇のように長細くなっており、ちょうどこの蛇腹道のあたりが、蛇のお腹になることから「蛇腹道」という名前を付したとのこと。蛇腹道の名前を付けた人物は、弘法大師・空海」その人だと云われているとか。

高野山真言宗総本山 金剛峯寺

☆高野山真言宗

「真言宗」には様々な宗派が存在します。主な宗派だけ数えてみても、実に 18 種類も数えることができます。高野山真言宗はそういった宗派の一つに含まれます。

高野山真言宗は、高野山奥之院・弘法大師御廟を信仰の源泉とし、壇上伽藍を修学の場所として、真言密教の教えと伝統を今日に伝えています。

☆天水桶（てんすいおけ）

金剛峯寺の屋根は檜の皮を何枚も重ねた檜皮葺（ひわだぶき）になっています。その屋根の上に、桶が置かれています。これを天水桶といいます。

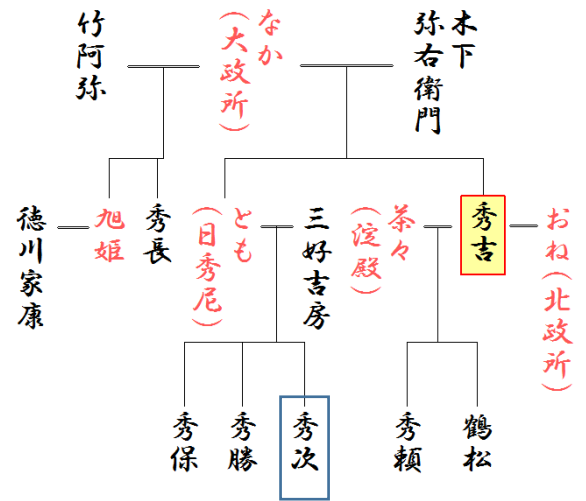
これは普段から雨水を溜めておき、火災が発生したときに、火の粉が飛んで屋根が燃えあがらないように桶の水をまいて湿らし、少しでも類焼を食い止める役割を果たしました。

☆柳の間（やなぎのま）

山本探斎（やまもとたんさい）による柳鷺図（りゅうろず）が描かれていることから柳の間と呼ばれています。この座敷は、文禄 4 年（1595 年）に豊臣秀次（ひでつぐ 二代目関白）が自害したことから「秀次自刃（じじん）の間」ともいわれています。

☆豊臣秀次

- 秀吉の姉（とも、後の日秀尼）の子で甥にあたる。
- 豊臣秀長（秀吉の異父弟）や秀吉の嫡男・鶴松が亡くなり、秀吉の後継者として異例のスピード出世、天正 19 年（1591 年）には関白になるも、文禄 2 年（1593 年）淀殿が豊臣秀頼を出産すると当時 5 7 歳の秀吉は秀頼に自分の後継者を任せたいと思うようになり、秀次が疎ましい存在となり、謀反の疑いをかけられ高野山に幽閉、文禄 4 年（1595 年）に切腹を命じられ自害。



☆蟠龍庭 (ばんりゅうてい)

弘法大師御入定 1150 年・御遠忌大法会の際に造園されました。2,340 平方メートルの石庭は、国内で最大級を誇っています。この石庭では、雲海の中で向かって左に雄、向かって右に雌の
一対の龍が向かい合い、奥殿を守っているように表現されています。

龍を表す石は、お大師さまご誕生の地である四国の花崗岩が、雲海を表す白川砂は京都のものが使われています。

☆阿字観道場 (あじかんどうじょう)

阿字観とは真言密教における瞑想法で、仏との一体をはかるものであります。阿字観道場は金剛峯寺第 401 世座主・中井龍瑞 (なかいりゅうずい) 大僧正の発願と多大な寄進により、昭和 42 年 (1967 年) に建立されました。

以上